



全シ協は令和7年11月20日、「シルボンヌ全国大会2025 in みやぎ」を仙台駅前のホテルメトロポリタン仙台で開催した

全国から642人が参加

公益社団法人全国シルバー人材

センター事業協会(以下、全シ協)は令和7年11月20日13時~16時、厚生労働省委託事業として「シルボ

ンヌ全国大会2025 in みやぎ」をホテルメトロポリタン仙台で開催した。

# 「シルボンヌ全国大会 2025 in みやぎ」開催 笑顔がつくる未来へありがとうと共に

## 「シルボンヌ」とは？

「シルボンヌ」は「シルバー」とフランス語の「ボンヌ」(お手伝い・親切・優れたの意味)を合わせた造語で、シルバー人材センターのイメージアップと女性会員の入会促進に向けて、公益財団法人いきいき埼玉(埼玉県SC連合)が平成30年に定めた女性会員の愛称。「シルボンヌ」を埼玉県内だけでなく、全国の会員に普及・浸透させて、シルバー人材センターのイメージ変革につなげたいとの思いで、全国大会への使用を承諾した。

現在、全国の1300を超えるシルバー人材センターでは、24万人以上の女性会員(シルボンヌ)が活躍している。本大会はシニア女性の活躍推進を目的に開催しているシンポジウムで、今回で6回目となる。

企画・運営は、企画運営委員会(メンバー6人)と実行委員会(メンバー13人)が担当した。企画運

営委員会委員長を務めたのは、奈良県SC協議会の宇田秀子会長。実行委員会委員長は角田市SCの佐藤久美子常務理事が務めた。総合司会は、仙台市SCの氏家喜美子理事。

今回のテーマは「笑顔がつくる未来」がありがとうと共に。佐藤常務理事は「東北の人たちは、東日本大震災をはじめとするさまざまな災害を経験しています。この大会では、そんな中でも笑顔で頑張ってきた女性会員の活動を紹介します、その元気を全国の皆さんに届けたいと思いました。そして、それが地域全体を明るくし、さらには未来の活動につながる力になることを願い、笑顔と未来をテーマ



開会のあいさつをする宇田秀子企画運営委員会委員長



祝辞を述べる松瀬貴裕宮城労働局長

に設定しました」と説明する。会場には全国からセンター会員や役員、一般市民が足を運び、来場者数は642人に上った。

### 展示販売や東北弁落語が盛況を博す

13時、ステージでは奈良県SC協議会・宇田会長による開会のあいさつが始まった。

「この会場に来ている人の中には、大きな災難を乗り越えてきた人もたくさんいると思います。そんな皆さんだからこそ、人との絆や、前を向いて生きることの大切さをより強く感じているのではないのでしょうか。この大会を機に、地域に『ありがとう』と笑顔を届

ける仲間が増えることを、そしてシルボンヌの輪がさらに広がることを願っています」と宇田会長。

続いて松瀬貴裕宮城労働局長が登壇し、来賓として祝辞を述べた。

「シルバー人材センターにおける女性会員の活躍は、地域の多様なニーズに応える力となっており、生活支援、子育て支援、文化活動など幅広い分野でその存在感を高めています。こうした活動は、地域の絆を強めるだけでなく、世代を超えた交流や地域文化の継承にも大きく貢献しており、その意義はますます高まっていると感じています。会員や職員の皆さんの情熱と行動力が、地域の未来を明るく照らす力となっていることを改めて実感するとともに、皆さんの尽力に深く感謝します」(松瀬宮城労働局長)

13時15分からは、岩手県遠野市出身の落語家、六華亭遊花氏による講演が行われた。演題は「なまなま 笑って コミュニケーション

ン」東北弁落語。東北弁の特徴をコミカルに表現したり、熟年夫婦の何気ない日常をユーモラスに描いたりしながら、会場を笑いの渦に巻き込んだ。

会場内の展示・販売ブースでは、東北の6センター(富谷市SC、むつ市SC、陸前高田市SC、角田市SC、喜多方市SC、色麻町SC)と佐賀市SC、伊万里市SC、福井市SC、山武市SCが出展し、女性会員が作った小物やバッグ、衣類、木工製品、特産品な



落語家の六華亭遊花氏による講演「なまなま 笑って コミュニケーション」東北弁落語。巧みな話術で会場を沸かせた

10センターによる展示・販売ブースは、多くの人でにぎわっていた



どを販売。価格も手頃とあって、どのブースも多くの人でにぎわっていた。

### シルボンヌの活動を 3センターが紹介

20分間の休憩を挟み14時20分から、宮城県・仙台市S.C.、山形県・鶴岡市S.C.、秋田県・由利本荘市

シルボンヌ活動紹介では、全シ協の白川由利枝理事がコーディネーターを務めた



S.C.の順に、女性会員の活動紹介が行われた。

司会進行役は、全シ協の白川由利枝理事と「奥州・仙台おもてなし集団 伊達武将隊」が務めた。

伊達武将隊は「現代によみがえった伊達政宗とその家臣たち」という設定で結成されたグループで、宮城県や仙台市の観光PRに向けて活動している。

#### ●仙台市S.C.

発表者は、シャンソン歌手としても活躍している会員の加藤真由美さん。シャンソンの魅力を熱く語るとともに、これまでセンター

仙台市S.C.の会員、加藤真由美さん（写真左）はセンターでの仕事について体験談を語った。写真右は仙台市S.C.北部支部の松本善美事業係主事



で取り組んできた仕事について体験談を話した。

「60歳になったのを機に、いろいろな仕事を経験したいと思い、センターに入会しました」という加藤さん。交通量調査、駐車場管理、チラシのポスティングなどを経て、今は清掃の仕事をしている。「掃除が苦手だったので、仕事を通じて上手にできるようにな

りました」と、仕事が自身の成長につながったことを述べた。

#### ●鶴岡市S.C.

鶴岡市S.C.では、会員同士の交流の場を創出することを目的に、女性委員会が「楽しくサロン」を展開している。その中から、令和6年度に開催した「ひなまつり女



鶴岡市S.C.は、女性委員会が開催した「ひなまつり女子会」を紹介。写真左から佐々木紀子委員長、原田元子副委員長、高橋佳子業務課長

子会」の事例を紹介した。

「女子会あいうえお」(あ・上がる、い・癒やされる、う・美しくなる、え・選べる、お・お得)に基つき企画。温泉施設の大広間を貸し切りにして、ひな祭りの演出が施された会場で、午前はストレスケア教室と二胡の演奏会を開催し、午後からは温泉にゆつくり漬かったり、カラオケや手芸、折り紙を楽しんだりしたという。

「心も体もほかほか、つやつやになりました」と話す女性委員会の佐々木紀子委員長。「コロナ禍がようやく収束して、久しぶりに1日ゆつくり楽しめる企画だったので、参加者も多く、笑顔いっぱい

●由利本荘市SC

令和7年10月に秋田県SC連合会の主催で行われた「由利本荘市・にかほ市シルバーフェア」での取り組みを紹介した。

このイベントでは、会員の作品展示や、会員が育てた野菜の販売、

バザー、体験講座などが行われた。

バザーでは家庭で眠っていた引き出物や食器などを会員から提供してもらい、200円均一で販売。

バザーの売上金は、能登半島地震災害義援金として寄付した。

実演コーナーも設けられ、会員の佐藤とよ子さんが障子と網戸の張り替えを披露。人だかりができたという。襖や障子、網戸の張り替えの仕事をしている会員の多く



由利本荘市SCの会員、佐藤とよ子さん(写真左)は襖や障子などの張り替えに従事。写真右は小園智子事務局長

TOPICS

～シルボンヌのマークとキャッチフレーズ～

◆女性活躍促進に向けた「シンボルマーク」

「全国のシルバー人材センターの女性会員は、仕事に、ボランティアやサークル活動にと元気に活躍しています。会員でない方も、会員になって、自分色の花を咲かせていただきたいという思いを込めて、女性と花が同化したシンボルマークを作成しました。全国のシルバー人材センターでは、このシンボルマークを掲げ、女性が生涯活躍できる社会を目指します。」



◆女性活躍促進に向けた「キャッチフレーズ」

「ありがとうは魔法の言葉」

「全国のシルバー人材センターでは、女性活躍促進に向けたキャッチフレーズとして『ありがとうは魔法の言葉』を掲げて、会員、利用者をはじめ、すべての皆さんから『ありがとう』と言っていただけるシルバー人材センターを目指します。」

★シルボンヌ全国大会の様子は全シ協ホームページで配信中！

<https://zsjc.or.jp/>

が男性という中、佐藤さんは、この仕事がしてみたいと63歳の時にセンターに入会した。

「訪問介護の仕事をしていた時

に、利用者の部屋の障子が黒く汚れているのを見て、きれいに張り替えてあげたいと強く思ったことがきっかけです」と話す佐藤さん。

張り替えの技術は、先輩会員に教わったという。

由利本荘市SCの小園智子事務局長は「これからは佐藤さんのように、新しいことにチャレンジする女性が増えてくると思います。講習会やイベントといった楽しい場を提供しながら、挑戦を続けるシルボンヌたちをしっかりと応援し、サポートしていきたいと考えています」と締めくくった。

### シルボンヌが女性活躍の象徴に

活動紹介が終わった15時10分、実行委員会委員が壇上に並び、実



「シルボンヌ宣言」をする角田市SCの佐藤久美子常務理事

主催者としてあいさつを述べる全シ協の西島喜義会長



行委員長による「シルボンヌ宣言」を唱和。続いて、全シ協の西島喜義会長による主催者あいさつが行われた。西島会長は「今回の大会を通して『シルボンヌ』が女性の活躍の象徴となり、大きな力になっていくだろうと改めて感じました。会員同士の友好の輪ができ、それが元気に活躍するための活力になる。そうしたことが実現できるセンターを目指して、これからもシルボンヌを応援してほしいと願っています」と述べた。

15時20分からは、大会のフィナーレを飾るアトラクションとして、伊達武将隊が演武を披露。武将隊

### シルボンヌ宣言 2025

私たちシルバー人材センターの女性会員「シルボンヌ」は、地域のため、仲間のため、家族のため、そして自分自身のために、仕事やボランティア、趣味にも笑顔で取り組んでいます。

ここ宮城・東北は、東日本大震災から14年の歳月が経過しました。

あの日から今日まで、困難な日々の中にあっても、地域を思い、支え合い、未来へ歩みを進めてきた「シルボンヌ」たちの姿がありました。

私たちシルボンヌは、地域を元気にする担い手として、笑顔をとともに分かち合い、「ありがとう」の心を大切に、互いに支え合い、励まし合い、これからの地域と未来のために行動し続けることを、ここに宣言します。

令和7年11月20日  
シルボンヌ全国大会2025 in みやぎ  
大会実行委員長 佐藤久美子

の掛け声に合わせて来場者みんなで拳を突き上げる場面が見られるなど、会場が一体となり大いに盛り上がった。

閉会后、宮城県SC連合会の石川浩史会長に話を聞いた。

「東日本大震災からの復興など、東北にはまだ課題を抱えている地域もあります。そのような中、この大会は、人々を元気づける意義のあるものになったと感じています」と手紙を語った。

(川上和義)



大会は「奥州・仙台おもてなし集団伊達武将隊」による演武で幕を閉じた